TECHNICAL GUIDE: ARCSERVE BACKUP R17

Arcserve® Backup r17

環境構築ガイド

インストール編

2016年 3月

REV: 1.1



目次

1. インストール環境の確認	4
1.1 動作要件の確認	4
1.2 ストレージ デバイスの準備	5
2. インストールの準備	5
2.1 インストールする場所	5
2.2 Arcserve Backup r17 のサービスに必要なアカウント	5
3. インストール	6
3.1 Arcserve Backup r17 ベースのインストール手順	6
3.2 最新のパッチ、各種モジュールの確認	16
4. アンインストール	16
4.1 Arcserve Backup のアンインストール	16
5. ヘルプ/マニュアル	17
5.1 ヘルプ/マニュアルの参照方法	17

変更履歴: 2016 年 3 月作成

注意:この資料は 2016 年 3 月 28 日現在の製品をもとに記述しています

すべての製品名、サービス名、会社名およびロゴは、各社の商標、または登録商標です。

本ガイドは情報提供のみを目的としています。Arcserve は本情報の正確性または完全性に対して一切の責任を負いません。Arcserve は、該当する法律が許す範囲で、いかなる種類の保証(商品性、特定の目的に対する適合性または非侵害に関する黙示の保証を含みます(ただし、これに限定されません))も伴わずに、このドキュメントを「現状有姿で」提供します。Arcserve は、利益損失、投資損失、事業中断、営業権の喪失、またはデータの喪失など(ただし、これに限定されません)、このドキュメントに関連する直接損害または間接損害については、Arcserve がその損害の可能性の通知を明示的に受けていた場合であっても一切の責任を負いません。

Copyright © 2016 Arcserve, LLC and / or one of its subsidiaries. All rights reserved.

1. インストール環境の確認

1.1 動作要件の確認

Arcserve Backup r17 関連製品の動作要件は下記 WEB ページを参照して下さい。 https://arcserve.zendesk.com/hc/ja/articles/204796386-Arcserve-Backup-r17-Software-Compatibility-Matrix

※ Windows Server 2012/2012 R2 環境の場合、Arcserve Backup をインストールする前 に、あらかじめ.Net Framework 3.5 SP1 を導入してください。

.Net Framework 3.5 SP1 の導入は Windows の[役割と機能の追加]か ら、[アプリケーション サーバー] -[.Net Framework 3.5 Features] を 選択して追加します。



Windows Server 2008 / 2008 R2 において、インターネット接続されていない環境に Arcserve Backup r17 をインストールする場合、デフォルト Arcserve データベースのイ ンストールのために、事前に.Net Framework 4.5.1 と日本語言語パックのインストールが 必要になります。インターネット接続できる環境において、以下のマイクロソフト社 サポー ト サイトからダウンロードしてください。

https://support.microsoft.com/ja-jp/kb/2858728

1.2 バックアップ先にテープ装置や VTL 等のストレージ デバイスを使用する際の準備

サーバに接続されたストレージ デバイスを Arcserve Backup から正しく利用するために、以下の点に注意し、準備する必要があります。

- ・ ストレージ デバイスはサーバから正常に認識されている必要があります。
- ・ 使用可能なストレージ デバイスについては「Arcserve Backup 認定済みデバイス」リストを確認して 下さい。ファームウェアのバージョンは、リストに記載されたバージョン以上であれば、原則サポート対象とな ります。

Arcserve Backup 認定済みデバイス

https://arcserve.zendesk.com/hc/ja/sections/200441039

2. インストールの準備

2.1 デフォルトのインストール パス

Arcserve Backup r17 はデフォルトでは下記の場所にインストーします。

・64bit 環境の場合

C: ¥Program Files (x86) ¥CA¥ARCserve Backup

C:¥Program Files (x86)¥Microsoft SQL Server (Arcserve データベース用)

・32bit 環境の場合

C: ¥Program Files ¥CA¥ARCserve Backup

C:¥Program Files¥Microsoft SQL Server (Arcserve データベース用)

※システム ドライブ以外の十分な容量のあるドライブへのインストールを推奨します。

2.2 Arcserve Backup r17 のサービスに必要なアカウント

「Arcserve Backup システム アカウント」は、Arcserve Backup のサービスがハードディスク ドライブやローカル ネットワークなどのローカルリソースにアクセスするための Windows アカ ウントです。

このアカウントはローカルの Administrators グループに属するユーザを使用します。ドメイン環境においては、Domain Admins グループ権限も必要となります。このアカウントには、Backup Operators グループ権限が自動的に追加されます。また、ユーザの権利として「オペレーティングシステムの一部として機能」「ローカル ログオン」「サービスとしてログオン」が必要となります。

[※]認定済みデバイスに記載されている ファームウェア のバージョンは、サポート対象を示すもので動作保 障を意味するものでは無いため、本番導入前に動作検証されることを推奨いたします。

※アカウント名に使用可能な文字数の最大文字数は15バイト(半角15文字)までです。

3. インストール

3.1 Arcserve Backup r17 ベースのインストール手順

ここまでで、Arcserve Backup r17 をインストールする事前準備が完了しました。ここからは、 Arcserve Backup r17 ベース製品のインストール手順を説明します。

[製品のダウンロード]

製品メディアがお手元に無い場合、下記のサイトから製品のダウンロードが可能です。 https://arcserve.zendesk.com/hc/ja/sections/200734306

[インストール手順]

- Arcserve Backup r17 をインストールするコンピュータに、Administrator または Administrators グループのユーザでログオンします。
- Arcserve Backup r17 のインストール メディアからインストールする場合は、ドライブにメ ディアをセットします。インストーラが自動起動します。
 製品をダウンロードしてインストールする場合や、インストーラが自動起動しない場合は、メ ディア内、もしくはダウンロードフォルダ内のルートディレクトリにある[setup.exe]を実行 してください。
- [インストール Arcserve Backup for Windows サーバおよびエージェントのイン ストール]を選択します。



 (前提条件コンポーネント)
 [インストール]をクリックし、前提モジュ ールを導入します。

※この画面は、インストール対象のコン ピュータに Arcserve Backup の前提条件 コンポーネントが検出されなかった場合 にのみ表示されます。

	Arcserve Backup セットアップ前提条件アプリケーション	
前提条件コンポーネント	CICSETVe [®] Backup	
→ 前提条件工术-ネット	たットアルプでは、Arcserve Backup をインストールするために、新建築件となる以下のロンボーネントをインストールする必要が始めま す。 コンポーネント名 Microsoft Visuel C++ 2005 SP1 Redistributable Peckage (x66) Microsoft Visuel C++ 2005 SP1 Redistributable Peckage (x64) 希望	
NJJAH Peodee 187	 以下のいずいかを発行してななとい: 新聞を発行しななンパーネットをインストールする場合、[インストール]をグリッグします。こちった当所すると、Arcserve Backup を インストールできす。 新聞を発行しなンパーネットをインストールしない場合、[キャンセル]ボタンをクックします。この場合、何モインストールはずにせッ トラップは終了します。 	
	インストール(1) 本ヤンセル	

言語の指定

このインストールに使用する言語を選択してください。

X

-

- [言語の指定]
 [日本語]が選択されたまま、[OK]をクリックします。
- [使用許諾契約]
 使用許諾契約を最後まで読み、同意できる
 場合は、[同意する]を選択し、[次へ]をクリックします。



1

日本語

7. [ライセンス キー]

ソフトウェアのライセンス方法をどちらか選 択し、[次へ]をクリックします。

- ※通常は、[25文字キー(例:ABCDE-FGHIJ
 KLMNO-PQRST-UVWXY)]を選択します。
- ※ライセンス キーをすでにお持ちの場合は、 ベース製品のライセンス キーを入力し てください。



[方式]
 インストール方法で[ローカル]を選択し、[次へ]をクリックします。
 ※ここではローカル マシンへの新規インストールを行います。



 [環境設定]- [インストールの種類] インストールの種類から[カスタム]を選 択し、サーバのタイプは[Arcserve ス タンドアロン サーバ]を選択して[次へ] をクリックします。
 ※ここでは Arcserve スタンドアロン サーバのインストールを行います。
 Arcserve プライマリ サーバ / Arcserve メンバ サーバの詳細は実装 ガイド「付録 B: 推奨事項を使用した Arcserve Backup のインストールおよ



びアップグレード プライマリ サーバとメンバ サーバのインストール」を参照して下さい。

※[高速]インストールについては、実装ガイド「第3章: Arcserve Backup インストールの 計画」を参照して下さい。 [環境設定] - [コンポーネント]
 コンポーネントのツリー画面では、選択したサーバタイプによって必要なコンポーネントがデフォルトで選択されます。必要に応じてコンポーネントを追加します。

ここでは、デフォルトに従い以下のコ ンポーネントをインストールします。

- ・ マネージャ (コンソール)
- ・ベース
- Client Agent for Windows for x64-Based Systems ※1
- Agent Deployment セットアップ
 ファイル ※2
- ・ 診断ユーティリティ ※3
- ※1 バックアップ サーバのローカル バ ックアップを実行するためには、ベ ース製品とともに Client Agent for Windows が必要です。



rve Backup セットアップ コンボーネント **Orcserve**[®] Backup 使用許諾契約 ターゲットホスト: [BACKUPSERVER1] ◆ ライセンスキ コンボーネント 詳細(E) 方式 → 環境設定 ✓ インストールの種類
 → コンボーネント rve Backup のペース製品をインストール odule overy Option します。 アカウント データペースの設定 メッセージ セットアップ サマリ インストールの進捗状況 インストール レポート vs for x64-Based Systems nes for x64-Based Systems Lineti Agent for Virtual Machines for x4-Based Systems Agent for Virtual Machines for x4-Based Systems Agent for Open Files for Windows for x44-Based Syst Agent Deployment ±ットアップ フィル Agent for Microsoft SQL Server for x64-Based Agent for Microsoft Scharepoint Server for x64-Based Agent for rMicrosoft Exchange Server for x64-Based Agent for r0x46 for x64-Based Systems この製品をインストールするには、ローカルのハード ディスク ドライブに 1338 MB 必要です。 ディスク信報(D) インストール パス(1): C:¥Program Files (x86)¥CA¥ARCserve Backup¥ フォルダの変更(F) 製品情報 Readme を表示 < 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル(C)

- ※2 [Agent Deployment セットアップファイル] を導入するには約 1.3 GB のハードディス ク空き容量が必要です。このコンポーネントは、Arcserve Backup インストール メディ アを使用せずにリモート マシンに対して Arcserve Backup エージェントを配布するため のアプリケーションです。導入しない場合は、チェックを外してください。 詳細は、実装ガイド「第4章: Arcserve Backup のインストールおよびアップグレード」 を参照して下さい。
- ※3 診断ユーティリティは、Arcserve Backup ログとシステム ログを収集してパッケージ化 する、トラブルシュートのためのツールです。詳細は管理者ガイド「第9章:データベー スの管理とレポート 診断ユーティリティ」を参照して下さい。

11. [環境設定] - [アカウント] Windows 管理者アカウントとして、 ドメイン名とユーザ名、パスワードを変 更、または確認します。 また、Arcserve の機能にアクセスする ための Arcserve 認証で使用されるユ ーザ「caroot」のパスワードを設定でき ます。

アカウント			
60100	a	rcserve [®] Backup	C
 ◆ 使用許諾契約 ◆ うイセンスキー ◆ 方式 	 ヨターゲットホスト:[BACKUPSERVER1] Windows 管理者アカウントを指定します ① Microsoft Windows ドメイン(D): 	BACKUPSERVERI	
◆ 環境設定 ◆ インストールの種類	Microsoft Windows ユーザ名(U):	Administrator	
✓ コンボーネント	バスワード(P):	******	854
データベースの設定 メッセージ セットアップ サマリ インストールの連挙状況 インストール レポート	Arcserve Backup Fメイン 7ガウントを指定します — ④ Arcserve Backup Fメイン(A): Arcserve Backup F→イン ユーザ名: パスワーF(W): パスワーF(W): パスワーFの確認(C): 「パスワードの確認(C):	BACKUPSERVER1 BACKUPSERVER1 caroot	
	マ Arcserve Backup Web サービスのインストール Web サービス認定 ポート(P)	8020	

[Arcserve Backup Web サービスのインストール]にチェックが入っている場合、Arcserve Unified Data Protection でテープのコピータスクを作成することにより、Arcserve Backup にジョブを作成する連携機能を使用することができます。デフォルトでチェックがオンにな っています。

※ドメイン名に使用可能な最大文字数は15バイト(半角15文字)までです。

※[パスワードを保存する]をチェックしておくと、Arcserve Backup ドメイン アカウントの パスワードを入力するダイアログが表示された時に、あらかじめパスワードが入力された状態 になります。

12. [環境設定] - [データベース設定] データベースの種類から[Arcserve デフ ォルト データベース]を選択します。 [SQL 言語照合順序設定]で[東アジア言 語の照合順序]から[Japanese]が選択さ れていることを確認して[次へ]をクリッ クします。

データベースの設定 **Orcserve**[®] Backup ✓ 使用許諾契約 · ライセンスキー 国 ターゲットホスト: [BACKUPSERVER1] データペースの種類を選択してください: → 環境設定 ✓ インストールの種類 🛩 コンポーネント アカウント → データペースの設定 e デフォルト データベースのインストール パスを指定します ● デフォルト インストール パス: C¥Program Files (○ カスタム パスを選択する oft SOL Se メッセージ セットアップ サマリ インストールの進捗状況 ve デフォルト データペースのう b Jod II. 18 インストール レポート ○ デフォルト インストール パス: C/¥Program Files (x86)¥Microsoft SQL Server¥MSSQL12 ARCSERVE_DB¥MSSQL¥DATA ○ カスタム パスを選択する SQL 會語照合順序設定 東アジア言語の照合順序 Japanese カタログ ファイルのインストール パス: C:¥Program Files (x86)¥CA¥ARCserve Backup¥CATALOG.DB¥ 製品情報 Readme を表示 < 戻る(B) 次へ(N) >

※Arcserve デフォルト データベース

を選択すると、Arcserve Backup r17

と共に Microsoft SQL Server 2014 SP1 Express Edition がインストールされます。 Microsoft SQL Server 2014 SP1 Express Edition のインストール イメージは Arcserve Backup r17 インストール ファイルに含まれています。

※製品版の Microsoft SQL Server を利用する場合は [Microsoft SQL Server データベー

Arcserve Backup r17 for Windows 環境構築ガイド インストール編

ス]を選択します。その場合は、Arcserve Backup のインストール前にローカルまたはリ モート環境に別途 Microsoft SQL Server をインストールしておく必要があります。

- ※導入後に Arcserve Backup データベースを Microsoft SQL Server 2014 SP1 Express Edition から、製品版 Microsoft SQL Server へ移行することは可能ですが、製品版 Microsoft SQL Server から Microsoft SQL Server 2014 SP1 Express Edition への変更 は未サポートになります
- ※Arcserve Backup r17 では、セッションの内容をすばやく参照し、必要に応じて情報を検索するためにカタログ データベースを使用しています。カタログ ファイルには、バックアップ時のセッション情報と共に、バックアップされたファイルの詳細情報が格納されます。 カタログ データベースのインストール パスには、カタログ ファイルとカタログ インデックス ファイルが作成されます。
- 13. [環境設定] 【メッセージ】 Arcserve Backup 製品以外にインスト ールするコンポーネントおよび警告メ ッセージを確認し、[次へ]をクリックし ます。



 14. [セットアップ サマリ]
 インストールする製品を確認し、[イン ストール]をクリックします。



15. [インストールの進捗状況] Arcserve Backup に必要なコンポーネントのイン ストールが開始されます。



[インストールの進捗状況]
 製品のインストールが開始され、インス
 トールの進行状況が表示されます。



17. [ファイアウォール登録]

ファイアウォールが有効な環境 (例えば OS の インストール後、デフォルト設 定でご使用の場合) では、Arcserve サ ービス/プログラムを例外として登録す る必要があります。 [Windows ファイ アウォールの例外として Arcserve サ ービス/プログラムを登録することを許 可する]にチェックされていることを確 認し、[次へ]をクリックします。



Windows Server 2008 R2 以降の場
 合、以下のネットワーク ロケーションの種類を選択できますが、ご使用の
 OS の設定と同じネットワーク ロケーションが自動で選択されますので、
 そのまま[次へ]をクリックします。

ファイアウォール登録	OrcserVe [®] Backup
・ファイアウォール登録	
	Arcserve では、Windows アイアウオールの物外として以下のサービスプロウスと整整する必要があります。 サービスなどりプログー、スラーダス 「ス CASDiesoriety はファイクウオールの物外に造成されま Ci4Program Files (x66) WCAKARCs CASDiesoriety はファイクウオールの物外に造成されま Ci4Program Files (x66) WCAKARCs CASTopEngine はファイクウオールの例外に造成されま Ci4Program Files (x66) WCAKARCs CASTopEngine はファイクウオールの例外に造成されま Ci4Program Files (x66) WCAKARCs CASTopEngine はファイクウオールの例外に造成されま Ci4Program Files (x66) WCAKARCs CASTopEngine はファイクウオールの例外にはなどれま Ci4Droughts CASTopEngine はファイクウオールの例外に見なまた。 Ci4Droughts F Windows ファイクウォールの例外として Arcserve サービス/Dr0ラルを登録することを許可する(A) オッドワーク ロケーションの種類を提取していたない: F Kr/Ci FV/CLAWE#Cl/DiATCVAWE#Cl/DiaTeXE#DFTFTTTTTTTTTTTTTTTTTTTTTTTTTTTTTTTTTT
aliii u an	

19. [インストール レポート]
 インストール済み製品を確認し、[次
 へ]をクリックします。



20. [ライセンスの確認]

コンポーネント名の一覧から購入した製 品を選択して[ライセンス キーを使用] を選択し、ライセンス キーを入力しま す。

入力後、[追加]をクリックするとライセ ンス キーが登録され、インストールタイ プが「フル」に変更されます。購入した製 品のライセンスをすべて入力し、[続行] をクリックします。

コンポーネント名			インストール	タイプ
Arcserve Backup	r17 - Uneck purchase (r17 Agent for FreeBSD	order for details of pur	トライアル(未	豆标) 登録)
Arcserve Backup	r17 Agent for Linux S	AP R/3 for Oracle	トライアル(未	登録)
Arcserve Backup	r17 Agent for Open Fi	les for Virtual Machines	トライアル(未	登録)
Arcserve Backup	rl/ Agent for Upen Fi r17 Agent for UNIX SA	les on Windows 2 P/2 for Oracle	トライアル(未	宣称) 容録) 、
<	TTT HEERC TOP UNITA SHI		1 21 770(#	A DK
ライセンス キー:				
ライセンス キー			登録済み	

21. [インストール レポート]
 インストール済み製品を確認し、
 [完了]をクリックします。



- ※ Agent Deployment をインストールしない場合は、このステップでインストールが完了します。
- 22. [Agent Deployment のインスト ール]
 手順 10.の製品の選択で「Agent Deployment セットアップ ファイ ル」を選択した場合、続いて Arcserve Backup Agent Deployment のインストーラが起 動します。
 インストールを継続する場合は、
 [続行] をクリックします。

	Arcserve Backup Agent Deployment のインストール
インストール	OrCSerVe [®] Backup
* 1221- <i>µ</i>	Arcserve Backup のインストールが完了しました。 Arcserve Backup のインストールが完了しました。 だ面してリックアップ リーバの管理を実行できます。 このユーディリティでは、目的の Arcserve Backup サーバに Agent Deployment セットアップ フィルをインストールできます。 Agent Deployment を使用すると、インストール メディアを使用しなくてもリモート ホスト上にある Arcserve Backup エージェントのイン ハールによびッグリードを実行できます。 Agent Deployment セットアップ ファイルには、ターグット サーバ上におよそ 1.3 GB のディスク空を容量が必要です。 デスティネーション パス: CHIPTOGYTON FileS(1998) (ACMARCServe BackupはPackageStatemtDeployment セットアップ ファイルをインストールできます。 ステム・ション パス: CHIPTOGYTON FileS(1998) (CMARCServe BackupはPackageStatemtDeployment セットアップ ファイルをインストールするには、「技行」をグリックします。 Agent Deployment セットアップ ファイルをインストールするには、「技行」をグリックします。 Agent Deployment セットアップ ファイルをインストールするには、「技行」をグリックします。 法:[キャンセル]をクリックした場合、Agent Deployment を使用してリモート ホスト上にエージェントのインストールおよびアップグレードを実行するときにインストール メディアを準備する必要が知られず。
	振行(T) キャンセル

23. [インストール完了]

Arcserve Backup Agent Deployment のインストールが正 常終了したことを確認して、[完了] をクリックします。



以上で Arcserve Backup r17 のインストールは完了です。

※インストールした製品によっては、コンピュータの再起動が必要となる場合があります。画面の 指示に従いサーバの再起動を実施して下さい。

※本ガイドではベース製品本体のインストールを説明しましたが、Arcserve Backupでは、手順10. [環境設定] - [コンポーネント] 画面において複数のプロダクトを選択し、同時にインストールすることも、後から個別にインストールすることも可能です。ただし、修正モジュール適用後に製品を追加インストールした場合には、再度修正モジュールを適用する必要があります。

Arcserve Backup r17 for Windows 環境構築ガイド インストール編

3.2 最新のパッチ、各種モジュールの確認

[最新のパッチ、各種モジュールについて]

インストール完了後、下記WEB ページにて、適用可能な最新のサービスパックや修正モジュールを確認します。

https://arcserve.zendesk.com/hc/ja/articles/202269159-Patches

Arcserve Backup には、「Arcserve Patch Management Tool」 (以降 APM と記載) という パッチ適用ツールがあります。APM は、お使いの Arcserve Backup が修正モジュールの適用 条件を満たしているか、あるいは未適用の修正モジュールがないか確認し、未適用のパッチがあ る場合は自動ダウンロードするか、または適用まで行うことを指定することができる便利なツー ルです。APMはインストーラ画面から「Arcserve Backup Patch Manager for Windows」を選 択してインストールします。APM の詳細については、「Arcserve Backup Patch Manager ユー ザ ガイド」を参照ください。ユーザ ガイドは以下の「製品マニュアル」ページより参照可能で す。

http://documentation.arcserve.com/Arcserve-Backup/Available/R17/JPN/Bookshelf.html

[バージョン情報の確認]

Arcserve Backup マネージャを起動し、ツ ール バーより [ヘルプ] –[バージョン情 報]を選択して下さい。

また、サーバ管理マネージャから、選択したサーバ毎に、インストールされている製品のビルド番号を確認することも可能です。



4. アンインストール

4.1 Arcserve Backup のアンインストール

Arcserve Backup r17 のアンインストールは、OS 付属の機能を利用して行います。

コントロールパネルから「プログラムのアンインストール」を起動し、[Arcserve Backup]を選択し、[アンインストール]をクリックします。

Arcserve Backup アプリケーションの削除画面から削除したいコンポーネントを選択して、アン インストールを実施してください。



※ Arcserve データベースとして使用している、Microsoft SQL Server Express Edition や、 Microsoft SQL Server は削除されません。削除する場合はそれぞれのコンポーネントのアンイン ストールを実施してください。

5. ヘルプ/マニュアル

5.1 ヘルプ/マニュアルの参照方法

ヘルプおよびマニュアルは、インターネットに接続された環境ではオンラインで参照可能です。インターネットに接続できない環境では、以下の技術情報に従い、ローカルでマニュアルを参照できるように設定を行うことができます。

Arcserve Backup r17 オンラインヘルプ/マニュアルをローカル環境で参照する方法 https://arcserve.zendesk.com/hc/ja/articles/207420096